



# 看護研究に関する委員会活動のサポート事業

責任者：岡田 みずほ 共同者：工藤 真由美, 遠藤 良仁

令和6年度岩手県立大学看護実践研究センター事業



## 活動の概要

本事業は、岩手県内のA病院看護部と連携し、院内の看護研究委員会が必要とされる支援を提供することで、看護研究委員会メンバーの看護研究の指導を担当するスキル向上を目指した。



## 活動の成果

看護管理部門担当者1名、看護研究委員会委員長1名と本学教員3名がコアメンバーとなるコア会議を構成し、1回/月程度の会議を開催、さらに委員会の時間を活用し研究員への支援を行った。



## 勉強会後アンケート7回平均

2.50 3.00 3.50 4.00

この内容は、自分が学びたい内容に合っていた

この内容は、研究指導者として知っておくべき内容だと思う

勉強会で学んだことや考えたことは、研究指導に活用できる

一つ一つ理解をしながら、聞くことができた(わかりやすさ)

これまで知らなかった新しい知識を得ることができた

すでに知っていた知識をさらに深く理解することができた

本日学んだ内容の要点を他者に説明できる

今回の勉強会テーマに関するアドバンスド(上級、専門的)な内容を学んでみたい

この勉強会は有意義だった

4:とてもそう思う  
3:少しそう思う  
2:あまり思えない  
1:思えない



## 活動内容



看護研究委員会での  
ワークショップ風景

看護研究委員会の時間を活用し、30分程度でミニレクチャーや、過去の研究計画書を用いた事例検討を実施。

看護研究委員会の委員から直接悩み事や困りごとを収集できるよう、デジタルツールを活用した。1~2件/月程度の入力があり、それを元にレクチャーの内容を検討。看護研究委員会でのレクチャー後に、委員の理解度や満足度を定量評価し、その結果をコア会議で分析評価した。

コア会議の風景



## アンケート結果から

勉強会の内容は、研究を指導する者として知っておくべき内容である、また研究指導に役立てることができるのは高く、本勉強会が指導者のニーズにこたえていたことがうかがえる。しかし、「他者に要点を説明できる」は相対的には低く、まだ研究の重要概念などを自信をもって説明できるまでは至っていない。また、「更にアドバンスな内容について学びたい」は他の項目より低く、指導者間で研究経験の差もあり、引き続き基本的なことをしっかりと学びたいという気持ちが表れていた。研修中半以降は、実際に指導者に提出された計画を基に勉強会を展開したことで、実際にどのような場合に、どのように書くか(表現するか)を「具体的でわかりやすかった」「指導に役立つ」など意見があった。実際30分のミニレクチャーであるが、限られた時間であるからこそ、理解しようとする姿勢も高まり、また指導する立場の責任感が熱心な受講の姿勢となったと考えられる。